

# 養殖ウナギ生産量回復

# 首都圏中心 3600ト 出荷

全国3位の生産量を誇る本県養殖ウナギの出荷が始まった。養殖期間が1年未満の新仔（しんこ）ウナギ。今年は昨年を上回る約3600トの生産量を見込んでおり、首都圏を中心に出荷するという。

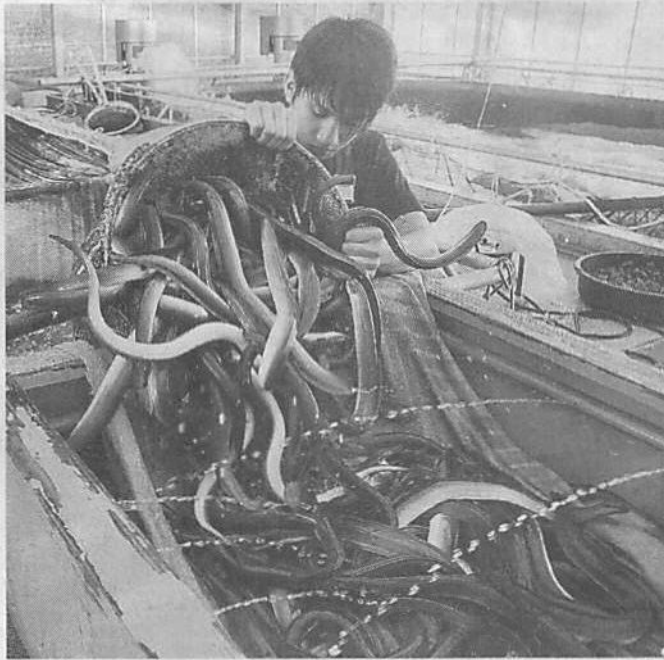
新富町新田の養鰻業「日高水産」（日高良浩社長）では2日、従業員5人が養殖池から運び込まれたウナギを選別。半年かけて約40坪に育てたウナギを成育状況に応じて次々とびくに移し入れた。

県養鰻漁業協同組合（岩切庄一組合長、17社）などによると近年、稚魚（シラスウナギ）の不漁が続き、昨年は県全体でウナギ出荷量が約2840トだったが、今年は昨年12月から3月に稚魚が確保できたことから、昨年比2〜3割増の生産量を見込んでいる。

## 「消費拡大に期待」 業合 養鰻 県組

同組合は、10年ほど前から魚粉にハーブを混ぜた餌を与え、川魚特有の臭いを抑えるなど肉質改良に取り組んでいる。岩切組合長（67）は「品質は日本一と

思っている。生産量はまだ最盛期には及ばないが、供給が増えることで高騰した販売価格が落ち着き、消費も伸びていってほしい」、日高社長（31）も「昨年はシラスウナギが取れず養殖池を半分以上使っていなかった。今年は成育が順調なので経営面からも期待している」と話して



養殖池から選別場に運び込まれた新仔ウナギ